



# 創立45周年記念誌

2004 Tottori Junior Chamber Inc.



鳥取青年会議所

## ご挨拶



社団法人 鳥取青年会議所  
理事長

### 岩成 正志

私ども（社）鳥取青年会議所は、昭和34年に全国で156番目の青年会議所として（社）米子青年会議所のスポンサーにより設立され、本年創立45周年を迎えるに至りました。45年間に渡り、明るい豊かな社会の創造を目指して活動を展開してこれましたのも、地域の皆様を始め、行政、友好団体、各地青年会議所の皆様など、多くの皆様のご支援、ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

また、この長い45年という歴史の中で、このまちの未来の為に多くの先輩方が築いてこられた功績は私たちにとって大きな財産であり、創立45周年という節目の年を迎えるあたり心より感謝の意を表すと共に、大変誇りに感じております。

今日、私たちの暮らす因幡では中国横断自動車道姫路・鳥取線の施工が具体的になりつつあり、また平成の大合併と呼ばれる市町村の再編も本格的に進んできております。地域主権の時代の中で、国土の中に於ける「因幡」の独自性を生かしたまちづくりが更に必要となってきました。また社会情勢の変化の中で、物質的な豊かさを追い求める時代から心の豊かさを重視する時代へと大きな転換期を迎えています。改めて、私たちは物事の本質を捉え、多くの因幡市民の方々と愛する我がまち因幡に誇りを持ちながら、更なるパートナーシップを築いていく必要性を感じています。

私どもは、2000年よりこのような社会背景のもと、既存の行政枠を越えた広域的なまちづくり運動として因幡市民共創運動を展開して参りました。本年創立45周年を迎えるにあたり、この因幡市民共創運動を更に具現化し50周年を見据えた中長期運動ビジョンを掲げると共に、これからの責任世代としてこの因幡が真に豊かな地域へと発展していく為に、更なる精進を重ねていく所存であります。

最後になりますが、今後も因幡のまちづくりに邁進して参りますので、引き続き（社）鳥取青年会議所に対しご理解、ご高配賜りますよう心よりお願い申し上げます。

## 祝 辞

鳥取青年会議所創立45周年を心からお慶び申し上げます。

鳥取青年会議所は、創立以来、明るい豊かな社会の実現に向けて、若者の英知と勇気と情熱を結集し、様々な活動を行ってこられました。

特に近年は「麒麟獅子フェスタ」の開催、「鳥取砂丘を切り口としたまちづくり・人づくり」活動、「姫路市の小学生親子を河原町に招いての自然体験inとっとり」の開催など、文化、まちづくり、地域間交流に重点を置いた活動に取り組まれておりますことに、深く敬意を表し感謝申し上げます。

なかでも、「都市と山村・漁村との交流フォーラム」では、私もコーディネーターとして、皆様と高速道路を軸にした地域のあり方を考えることができたことは、大変有意義であったとともに、若い皆様の積極的な姿勢を見て心強く思ったところであります。

鳥取県では、厳しい財政事情の下ではありますが、現下県政の最重要課題である雇用対策や地域産業の振興、「知の地域づくり」に関する施策や「地域を支え家族を大切に」するためのきめ細かな施策などを積極的に実施し、地域の自立と再生に向けて取り組んでいるところであります。

特に雇用対策については、鳥取県版「雇用のためのニューディール政策」を引き続き実施し、離職者や新卒者を雇用する企業に対する助成措置の充実など、雇用情勢の改善に取り組むこととしております。

これらの施策を推進し真の地域の自立と再生を実現するためには、県民の皆様の御支援が大切であり、とりわけ次の時代の担い手である皆様の活動が不可欠であります。

今後とも若者らしい発想と行動力で地域の活性化のために先駆者となり御活躍されることを期待しています。

最後に、鳥取青年会議所のますますのご発展と会員皆様の御健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。



鳥取県知事

**片山 善博**氏

鳥取青年会議所が創立45周年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

昭和34年創立以来、「明るい豊かな社会」を実現するため、各行政課題への提言やイベントの開催、社会奉仕活動など様々な活動を展開され、若者らしい発想と行動力をもって、地域社会の発展にご尽力されていることに対しまして、深く敬意を表する次第です。

さて、本年は、いよいよ市町村合併の年であります。本市においては、東部10市町村での広域合併を予定し、11月1日の新市発足を目指して現在準備を進めているところであり、事務事業の調整も最終段階に入っている状況です。貴青年会議所におかれましても、従来の行政枠を超えた広域的な連携の中で、まちを考えていくことの必要性をいち早く認識され、「因幡市民共創運動」を提唱されております。まさに、本市の考え方と同様であり、貴青年会議所が市町村合併を成功に導く大きな原動力として、活躍していただけるものと期待しているところです。

また、中国横断自動車道姫路・鳥取線の早期建設、中心市街地の活性化、観光コンベンションの推進など、多くの課題が山積しております。貴青年会議所の皆様と堅密に連携し、「人が輝き まちがきらめく 快適・環境都市鳥取」を目標とし、市民と行政の協働の仕組みを活かして、諸課題に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

創立45周年を契機として、貴青年会議所が組織力と行動力をさらに発揮され、本市経済の活性化と地域社会の発展の原動力として、引き続き、大いに貢献されますことを強く期待します。また、会員各位のますますのご健勝、ご活躍をお祈りし、お祝いの言葉といたします。



鳥取市長

**竹内 功**氏

## 祝 辞



社団法人日本青年会議所  
会頭

**米谷 啓和** 君

大きな環と小さな環とが響き合う「スローソサエティ」の実現へーこれが本年度日本JCのスローガンです。地球という大きな循環のシステム、そして地域の自立した小さな循環社会との調和。過去・現在・未来と一直線に進む進歩する時間・産業の時間の支配から、いのちのつながり・天体の運行といった循環する時間・自然の時間の領域へと生活や経済の軸足をすこしずつずらしていく。そして社会におけるスローな価値観のウエイトが10%、20%と幅を広げ、それが51%を超えた瞬間、スローソサエティへの劇的なパラダイム転換が起きる。それを目指す運動なのです。

社団法人鳥取青年会議所が、岩成正志理事長のリーダーシップの下、創立45周年を迎えるにあたり、豊かな自然・食・文化・人の温もりといった多様なつながりに満ちた地域の特性を生かし、環日本海側時代の幕開けをめざし、経済発展と豊かな地域資源とのバランスの取れた「日本のふるさと因幡」の創造に向かってまちづくりに取り組まれていますこと、とても心強く感じています。

スローな式典、スローな懇親会に参加した多くのメンバーが、そのスローな時間の流れを体感し、自らの内なるものさしに気づく機会となることを願っています。



社団法人日本青年会議所  
中国地区協議会会長

**山田 正敏** 君

社団法人鳥取青年会議所が創立45年という節目の年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

この節目の年が、「真価するJC 今まさに未来を切り拓かん！」のスローガンのもと、皆様がこれまでに歩んでこられた歴史を振り返り、創立にお力を尽くされた先輩方の情熱を思い起こすとともに、現下の社会情勢の著しい変化を鑑み、次代の貴青年会議所の社会的存在意義を見つめなおす機会となりますことを切にお祈り申し上げます。

私たちの生活している社会は「多様なつながりに生かされた社会＝スローソサエティ」であり、人と人、人と自然、そして現在と未来とが有機的につながり合う社会です。この社会の中で、私たちは公益法人たる青年会議所として運動を展開しています。公益法人としての真の公益性のめやすは、どれだけ多くの地域の皆様に「この町にJCがあってよかった！」と言って頂けるかということだと思います。

貴青年会議所が「個と公の調和のとれた活力と知力あふれる社会」の創造のために、共同体的組織と機能体的組織のバランスに加えて、個の遂げる変革が、その組織を進化させるだけでなく、社会に対して直接の影響をあたえる「進化体」組織として今後ますます発展されますことを心より祈念申し上げます。



社団法人日本青年会議所  
中国地区  
鳥取ブロック協議会会長

**柏木 晴夫** 君

鳥取青年会議所設立45周年を心よりお祝い申し上げますとともに、本日に至るまでの先輩の皆様、現役諸兄ご尽力に対しまして心より敬意を表させていただきます。また本年は岩成理事長の『真価するJC 今まさに未来を切り拓かん！』のスローガンもと現役メンバー一丸となって活動されています。“因幡”地域に向けた皆様の情熱をひしひしと感じております。

鳥取ブロック協議会は、全国でも最小数のLOMで構成されているブロック協議会でもあります。しかしながら、鳥取青年会議所をはじめとしたこの5のLOMは一致団結しています。最小の数で最大限の努力を惜しまず、最高の目標に向かっていきます。本年、鳥取ブロック協議会は【切磋琢磨】のスローガンのもとで人と人、メンバーとメンバーが高い志を持ってお互いに競い合っています。また、ブロック内のメンバー自身、コミュニティービジネスの調査研究・ローカルマニフェストへの取り組み・心の教育・スポーツ大会・会員大会などに取り組むことを通して資質の向上を目指しています。

最後に、この“因幡”地域から・また周りの人々からの期待を胸の奥にしまい、苦難に目を背けずに果敢に未来に向かって邁進されます様、祈念申し上げますお祝いの言葉とさせていただきます。

# 因幡の歴史と誇り

## 因幡のはじまり

古代の奈良時代、天皇を中心とした政治のしくみ（律令国家）が出来あがった当時、全国は60余りの国に区分され、今日の鳥取県は因幡国と伯耆国の二つの国で出来ていました。60余りの国は、畿内と七つの道に行政区画が分けられ、因幡国や伯耆国は、京都府から西の日本海沿いの地域（現在の但馬地方）と一緒に山陰道とされていました。それぞれの国には国府が置かれ、因幡国の国府は現在の国府町に置かれ、『万葉集』で有名な大伴家持が赴任し、数々の因幡に寄せる深い想いのある歌を残しました。因幡国のこの頃の人口は、約62,500人とされています。また、有名な『因幡の白兔』の話は“古事記”にも記されており、古くから栄えたまちであったことがうかがえます。

## 因幡のあゆみ

日本が戦乱の時期、因幡の地も例外ではなく、様々な戦を繰り返し、室町時代の山名時氏を始め、尼子清定、毛利元就らに他地域と共に治められていました。安土・桃山時代、天下統一を目指す織田信長の命により、羽柴（豊臣）秀吉が毛利輝元に攻め入り、鳥取城へも軍を向け、城主である吉川経家と対峙しました。経家は、秀吉三万人の軍勢と兵糧攻めに対し、援軍も無く、飢餓状態まで戦いましたが、人々の事を考え、自分を含めた3守将の自害を条件に他の者を助けるとの約束を秀吉と交わし、降伏し自害しました。経家の戦国武将としての心意気は後々まで語り継がれています。また、鹿野城主亀井茲矩は、新田開発の振興や中国などとの貿易を盛んに行い、現代に大きな影響を与えました。

江戸時代に入り、姫路城主であった池田光政が鳥取城主となり、岡山藩とほぼ同じ32万石を徳川家康より与えられ、鳥取藩（因幡・伯耆）を238年間統治しました。その間に徳川の影響のある文化などが定着したと考えられ、その代表的なものとして“麒麟獅子舞”が上げられます。麒麟は古くは中国より聖獣とされており、日光東照宮にも奉納されています。その麒麟は神の化身として因幡各神社に伝わり、人心を一つにまとめ、因幡の発展へと繋げました。現在も因幡各地域で“麒麟獅子舞”は行われ、平和と繁栄という人々の願いを込めたものとして行われています。鳥取藩では治水や用水路の開削技術が進み、新田開発も盛んに行われ、耕地も収穫される米も増えましたが、因幡は丘陵地が多いこともあり、時には水不足で、日本海の暴風と飛砂に苦しめられました。しかし、郡家町の安藤伊右衛門が丘陵地の開墾を行い、船越作左衛門が黒松を植林して砂丘の防砂林で畑を開墾するなど、多くの人々による不屈の努力によって今日の作物が豊富な因幡が築かれました。また、当時は木綿・絹・因州和紙の生産も盛んで、特に因州和紙はその品質の良さで伝統産業として現在も伝わっています。因幡地方の土地は原料の楮栽培に適し、生産に必要な清潔な川が多い為、御用紙（藩で特別に使用される紙）の有名な産地として全国に知られました。

現在も校門や記念碑の残る鳥取藩校「尚徳館」は、1757年、全国的にかなり早く創設されました。創設趣旨には「昔の事柄をお手本とし、正しい生き方を身につけよ」「日常生活の中で目上の者を敬い、年寄りを大切にせよ」などがあり、12代藩主池田慶徳は「文武併進」を教育目的に学校を拡張しました。幕末の鳥取藩を大きく動かしたのは藩校尚徳館で学んだ藩士たちでした。

## 鳥取県の誕生・廃止・再置

1868年7月、江戸は東京と改められ、9月には明治と改元されました。翌年、版籍奉還があり、全国の土地と人民は公のものとなりましたが、明治政府は更に中央集権化を計る為、廃藩置県を断行し、1871年7月、鳥取県が誕生しました。初代権令（県知事）は因幡二十士のひとり、河田景与（河田佐久馬）でした。しかし、1876年8月31日、鳥取県は廃止され、島根県に併合されました。併合には多くの県民の反対を呼び、再置の声が上がり、運動へとつながりました。鳥取県再置運動はうねりとなって様々な活動と共に展開し、やがて山県有朋の視察、伊藤博文の「鳥取県再置案」提示を経て鳥取県は1881年9月12日再置されました。以来9月12日は「とっとり県民の日」と定められています。

教育においては明治新政府が学制を公布し、全国に小学校を設けました。

当時小学校へは男女問わず入学しましたが、それに続く中等教育は男性のみでした。そんな中、小沢咲を代表とする「鳥取婦人会」が中心となり寄付を集め、1888年「鳥取女子校」（現在の鳥取西高）が設立され、1906年久松幼稚園を設立しました。また、古田貞により「鳥取裁縫女学校」（現在の鳥取敬愛高校）が設立されるなど男女問わず教育の必要性を感じた民意の行動が、まちを変えていきました。また、倉吉の中井太郎発明による農作道具「太一車」は全国へ普及するなど私たちの郷土には地域発展に尽力し貢献する人物が多くいました。全国に先駆けた民芸運動も県民性の特徴が表され、“民芸品”とは、名もない職人たちが創り続けた日常品こそ、やさしさや温もりが感じられ、日々の暮しを精神的に豊かなものにすると呼ぶ「鳥取民芸美術館」「たくみ芸店」が設立され、東京へも支店を設立し発信するなど機械化・量産化する日常品に対し一石を投じています。

## 産物と鳥取砂丘

産物では二十世紀梨が日本でも有数の生産地域ですが、当初二十世紀梨は、千葉県松戸市で松戸覚之助がゴミ捨て場から偶然発見し、1904年鳥取市桂原の北脇永治によってもたらされました。当時は黒斑病や第二次世界大戦などとりまく環境に悩まされましたが、粘り強く栽培し続け、今では「二十世紀梨といえば鳥取県」と呼ばれるまでになり、財産であり誇りとして定着しています。

鳥取砂丘は日本海に面し、東西16km、南北2kmの日本一の規模で、風が描いた風紋や砂簾などの美しい姿は住民や観光客を喜ばせています。鳥取砂丘は、古くは氷河期より始まり、中国山地の花崗岩が風化し、千代川によって運ばれて出来たものです。4万5千年前、大山の噴火により覆われた火山灰に氷河期の氷が溶け、一旦海になった時も河口に砂が積もり、縄文時代に海が引き始め、現在の砂地を現しました。その時出来た池が現在日本一の湖山池です。第2次世界大戦後、鳥取砂丘は食料増産の為、開発が進められました。しかし、飛砂や水分の保湿が保てない砂地での作物栽培は苦闘の連続でした。1953年、海岸砂丘地帯農業振興臨時措置法を機に、スプリンクラーや農業機械の導入により大きく発展をし、砂丘ラッキョウなどが栽培されています。砂丘農業の発展のもう一つに鳥取大学乾燥地研究センターがあります。「砂丘造林の父」と呼ばれる原勝教授による垣を張り、黒松とニセアカシアを植える方法は全国に普及し、遠山正瑛教授によるメロン栽培などの研究と実践の成果は世界各国へ発信され、ゴビ砂漠などの緑化運動につながっています。また、1998年完成のアリドドームでは世界各地から研究者が集まり、世界の乾燥地の砂漠化を防ぐ研究や事業を行っています。

## 昭和から平成へ

明治時代、鳥取市に鳥取県庁が置かれ、市制がしかれました。1908年には鳥取駅が開設され、鉄道が京都までつながると、智頭街道や若桜街道が経済の中心となり、市街地が形成されました。その後、洪水（1918年）・地震（1943年）・火災（1952年）と大きな災害に襲われましたが、千代川の水路付け替え、新袋川の増設など粘り強くまちを築き上げてきました。1965年から企業誘致、区画整理、道路の拡張などを行い、1966年の鳥取三洋電機を始めとする工業団地の発展や1978年の鳥取駅高架化に伴う銀行やホテル等の高層ビル建設が進みました。

そして今年、「平成の大合併」と呼ばれる市町村合併を控えています。今後のまちの姿が変わると同時に自主的、自立的、主体的なまちづくりが求められています。産・官・学・民みんなの声が反映され、より豊かなまち、明るい社会づくりが推進できるまちをみんなの手で創造する努力が必要です。

## 【参考文献】

鳥取県教育委員会 「ふるさと歴史めぐり」  
鳥取市 「新しい市政を実現するための改革プラン」

# 鳥取青年会議所の過去の活動

続いて私たち（社）鳥取青年会議所の1999年以降の活動を振り返ってみます。

## 因幡市民憲章

大いなる山々よ 流れ続ける千代川よ きらめく鳥取砂丘よ 大陸へと  
続く日本海よ 悠々と麒麟舞うまち 私たちは因幡市民です 夢と 勇気  
と 誇りをもって 明るい豊かなまちをつくるため ここに因幡市民憲章  
を定めます

1. いきいきと明るい笑顔を育める、すこやかなまちをつくりま
1. 梨の花咲きほころぶ豊かさ、文化と潤いのあるまちをつくりま
1. 万人の希望の音が響き合う、元気なまちをつくりま
1. しっかりと小さな一歩を積み重ね、地球を愛するまちをつくりま
1. みんなの心をひとつにし、たすけあい、活かしあうまちをつくりま

## 因幡田園都市構想から因幡市民共創運動へ

1990年の『因幡市構想』に始まり、『因幡都市構想』そして『因幡田園都市  
構想』へと私たちの活動理念は進化して参りました。この因幡を光り輝く誇  
らしいまちにしたい。それぞれのまちが互いに自立し、活かしあい、連携する  
ことで明るい豊かなまちを目指していく。そんなまちづくりの視点で様々な  
活動を通し、市民意識の高揚を図り、仲間づくりの輪を広げていく運動でした。

1999年の創立40周年時には市民との協働による積極的な活動を目指し  
た「新因幡市民シップ」を発表し、「因幡市民憲章」を起草しました。そして、  
さらに積極的に前向きな行動を行う責任者たらんとする市民づくりを推進  
する2000年度運動指針『因幡市民共創運動』へと進化し、現在へとつなが  
っています。具体的には

- 親たちが安心して子どもを育て、明るい笑顔を育む行動をする市民づくり
- 企業が繁栄し、産業が栄え、自由な発想で活気ある経済活動を推進する市民づくり
- 正しいまちの歴史観を持ち、誇りをもって文化を継承する市民づくり
- 高い有権者意識と、深い納税者意識をもち、希望に向かって邁進する市民づくり
- 国家的、国際的な視点を持ち、自分自身の行動に置き換え実行する市民づくり
- 思いやりにあふれ、たすけあい、活かしあうことに喜びを共感できる市民づくり

の6つの切り口を中心に現在活動しています。また、心の教育の重要性や  
NPO活動の研究など幅広い視点で活動を行っています。

## 近年5年間の主な活動

かつて、若き藩主池田光仲公が因幡の人々の心をついにまとめるため『麒麟  
獅子舞』を各神社へ奉納しました。1995年より、その『麒麟獅子舞』を一  
同に会した事業「麒麟獅子フェスタ」を行っています。毎年開催する市町  
村を変え、一般参加型事業「フェスタ」という多くの市民が参加しやすい  
手法を用い、毎年表現や視点を変え、「権現まつり」等他の事業との共催な  
ど様々な可能性にチャレンジし、行政、まちづくり団体と共創し、ひとづ  
くりへとつなげています。

また、因幡を代表する祭りの一つである「鳥取しゃんしゃんまつり」に  
は2001年より再び参加をし、「鳥取しゃんしゃん祭り振興会」において深  
く参画し、祭りの一斉踊りでは「因幡は一つ」をしっかりと発信しながら、  
青年らしく盛り上げ、メンバーの一体感、因幡への想いを深めています。

## 地域間交流

念願であった『中国自動車道姫路・鳥取線』は、今までの陳情等の活動も  
あり、新直轄方式での着工が決定しました。高速道路がまちづくりを加速  
化すると訴えてきた私たちは、様々な視点でこれからの因幡を考え、姫路  
の親子を招き、都市と因幡地域の新しい交流・連携を模索した2002年「新  
因幡グリーンツーリズム大作戦」や、今後の国際交流・連携を見据えた北  
東アジア交流圏の調査事業、2000年「Think Globally Act Globally Forum～  
北東アジア交流圏の未来」等を行っています。

## 鳥取砂丘発信

1989年発足時より強く関わってきた「砂かけフォーラム」は、1999年に  
行った「砂かけフォーラム発掘砂丘大辞典」でその役割をさらに再認識し、  
より行政・市民を巻きこんだ、「鳥取砂丘と東部広域観光を考える100人会」、  
「鳥取砂丘新発見伝」へと姿を変え大きく進化しました。2000年の「夢砂丘  
プロジェクト2000～世紀越えin鳥取砂丘」では12月31日深夜、鳥取砂丘を  
舞台上に光源を入れ、多くの市民とカウントダウンを行い、翌2001年「眠ら  
ない砂丘～砂丘祭01」では光源で得られる夜の砂丘の美しさを全国に発信、さ  
らに世界遺産登録の可能性を追求しました。2002年「夢砂丘プロジェクト  
02～新たな砂丘の姿を目指して」では景観保全の原点に立ち返り、2003  
年には市民による小学生の「鳥取砂丘ジュニアビーチサッカー大会」を行い、  
これからの砂丘のあり方、新たな鳥取砂丘の魅力の発見を模索しています。

## 青少年育成

毎年春に青島で行われている「鳥取子どもまつり」には第1回より参加し、  
本年で第29回目を迎えました。子どもたちの育成や、より多くの市民による  
参画を目指し、実行委員会の拡充、子ども実行委員会の立ち上げなど、より深  
い関わりを持ちながら、参加団体等とこれからの育成について一緒に考える  
場を作っています。また、1999年には環境・食糧・教育問題などを地球規模で  
考えた「因幡市民ジュニアワールドゲーム」を開催し、2000年には親子の結  
びつきをテーマにした砂像作り事業「わくわくサンドランド～親子で砂まみ  
れ」を行い、2003年には奉仕の心、社会への関わりを体験した「チャリティフ  
リーマーケット」など、現代の子どもにとって大切なことを伝えています。

## 環境

親子を対象にグローバルな視点で森林・水の大切さを伝えた1999年「集  
え水辺に因幡の親子体験ツアー」や水質をテーマに我々の身近な環境に対  
する行動を伝えた2000年「エコ・スクール21 in 因幡」、環境ジャーナリス  
トの枝廣淳子氏を招き、環境に対する我々の行動に示唆をいただいた2001  
年「始めよう環境新世紀セミナー」、また森林保全・間伐の必要性を理解し  
てもらう2003年「わくわく因幡～森林の恵み体験隊」等を行いました。千  
代川流域・湖山池での実際のワーキングを行うことで因幡の地域環境を市  
民と共に考え、我々の日常生活の中で出来るちょっとした身近な行動を検  
証・実施することにより、地球規模の環境問題を考えています。

## 福祉

福祉施設との交流会「積善学園ひなまつり」「若草学園お楽しみ会」や、  
「ふれあい広場」等に積極的に取り組み、参加することで交流を通じて現状  
の問題点やこれからやらなければならない行動を参加者と共に考える活動  
を展開しています。また1999年には福祉に関わる団体・高校生の意見交換  
を行った「パートナーシップネットワーク」、2000年には砂丘でも使える  
車椅子を使用し、心のユニバーサルデザインを目指した「ふれ愛チェアウ  
ォーカー」や、2002年には障害者の就労をテーマに模擬店を運営した「ワ  
クワクチャレンジショップin木のまつり～就労意識の変革を目指して」を  
行いました。高校生ボランティア「とっとり福祉MAPづくり隊」をはじめ  
とする市民、行政、福祉施設などと一緒に問題点に取り組んでいます。

## 対内研修・諸活動

会員の資質の向上を目的に、定例会時の「3分間スピーチ」や、自己啓発  
を促す各種セミナー、研修を行い、それぞれが『内なる基準』を確立できる  
全体研修活動を行っています。また、組織運営の検証、諸規定の見直し、会  
議のデジタル化など時代の要請に対して、積極的に取り組んでいます。

また日本JCに対して、1999年「麒麟獅子フェスタ」、2000年「夢砂丘伝説」、  
「合同例会Exchange21（釧路JCと合同申請）」、2001年「実践」いなばやさし  
さひろば」を褒賞申請し、日本準グランプリ等をいただくなど、活動が評価さ  
れ、今後も責任と自覚を持って活動していこうと気持ちを引き締めています。

## 社団法人 鳥取青年会議所中長期運動ビジョン

# 「私たちは、因幡を日本一誇りを 持って暮らせるまちにします」

- 伝統** ① **地域の誇りと独自性を活かしたまちをつくります。**  
 伝統文化、歴史、風俗性を共有し、正しい歴史観のもと、思いや誇りが継続し活かされていく、独自性のあるまちをつくります。
- 経済** ② **経済の活性化を行い自立したまちをつくります。**  
 因幡地域の経済的自立を行うために、固有の資源、食物、自然、地域の伝統文化を活用・発信する事によって地域経済が活性化するまちをつくります。
- 参画** ③ **市民の声が反映される提案型のまちをつくります。**  
 人と人とのつながりを大切にし、意見が活発に飛び交う仕組みをつくり、市民参画意識を醸成し、皆の夢や声が反映されるまちをつくります。
- 循環** ④ **資源や食料、エネルギーが循環自給するまちをつくります。**  
 資源や食料が循環自給する、スローなコミュニティを創造し、心の安らぎを得て、健康的な生活の出来るまちをつくります。
- 心** ⑤ **人と人とのつながりが中心となる心豊かなまちをつくります。**  
 モノで心を満たす価値観を見直し、人と人とのつながりを中心とした信頼関係を再生し、助け合いの心や、公德心や道徳心が根付いた、心豊かなまちをつくります。

### 社団法人 鳥取青年会議所 中長期ビジョンの策定にあたって

戦後日本はその復興過程において、奇跡的とも言える経済復興を遂げ、物質的に非常に豊かになりました。しかし一方、その過程において伝統や歴史、いにしへの日本人が持っていた「和の心」や「伝統」「歴史観」といった素晴らしい心や価値観を置き去りにしてきたように思います。青少年・家庭に関する人間愛・道徳性・教育の問題、経済システムの疲弊・崩壊、地球規模での環境破壊等、様々な問題が大きな歪みとして見え始め、今日失ったものの大きさに気づき始めた我々日本人の姿があります。

明るい豊かな未来を手に入れるために、今この失った心や価値観を取り戻すために「心の時代」へと回帰する必要があります。幸いにも私たちが暮らすこの因幡には、我々日本人の「心の原風景」とも言える、美しい自然環境や人に優しい人間性等が数多く残されています。我々はこのような簡単には得ることのできない財産を持つ「因幡」をしっかり認識し、日本再生のモデルケースとならんべく、この中長期運動ビジョンを策定するに至りました。

伝統や歴史、先人の努力や思いを大切に、正しい歴史観、因幡市民としての誇りを持って暮らしていけるまちづくりを行います。また新たなまちの魅力の発掘、魅力の語り継ぎを行い、より大きな誇りへと進化させて参ります。

因幡の誇りをさらに魅力的に大きくし、それを多くの人・モノ・情報が行き来するまちづくりへとつなげ、因幡の都市イメージを良好に創出することによって、外部からの来訪・定住を含んだ人口増を図り、より多くの人材を活用・育成する仕組みをつくって参ります。

因幡の誇りを核とした地域間連携、観光ベンチャーなど市民参画型の地域に根ざした経済の活性化、核とした地域経済活性化を行い、他の地域にはない独自性のあるまちづくりを行って参ります。

北東アジア諸国に近い地勢を活かした国際化の潮流に対応したまちづくりを行うほか、社会福祉の増進、社会教育の推進と充実、男女社会参画社会の形成、地域における雇用の創出等についても考察を続けて参ります。

政治に対する市民の参画意識の向上のために、高い有権者意識と深い納税者意識を

醸成し、市民による提案型のまちづくりを行うことのできる仕組みづくりを行って参ります。

非常に便利で速度の速い情報社会にある負の影響をしっかりと認識し、「身土不二(※)」の考え方に代表される、因幡古来の伝統食や郷土食(スローフード)、地域の中でのエネルギーの循環活用等の有効性について調査研究を行って参ります。

モノの時代から心の時代への転換は急務であり、それには我々の価値観を見直すことが、非常に大事だと考えます。それは目に見えるモノ(物質)や利便性のみに価値観を持つ物質文明から、かつて日本人が大切にしていた目に見えない精神文明や哲学(和の心、因幡の心)を持つ価値観への転換を目指すことだと確信します。

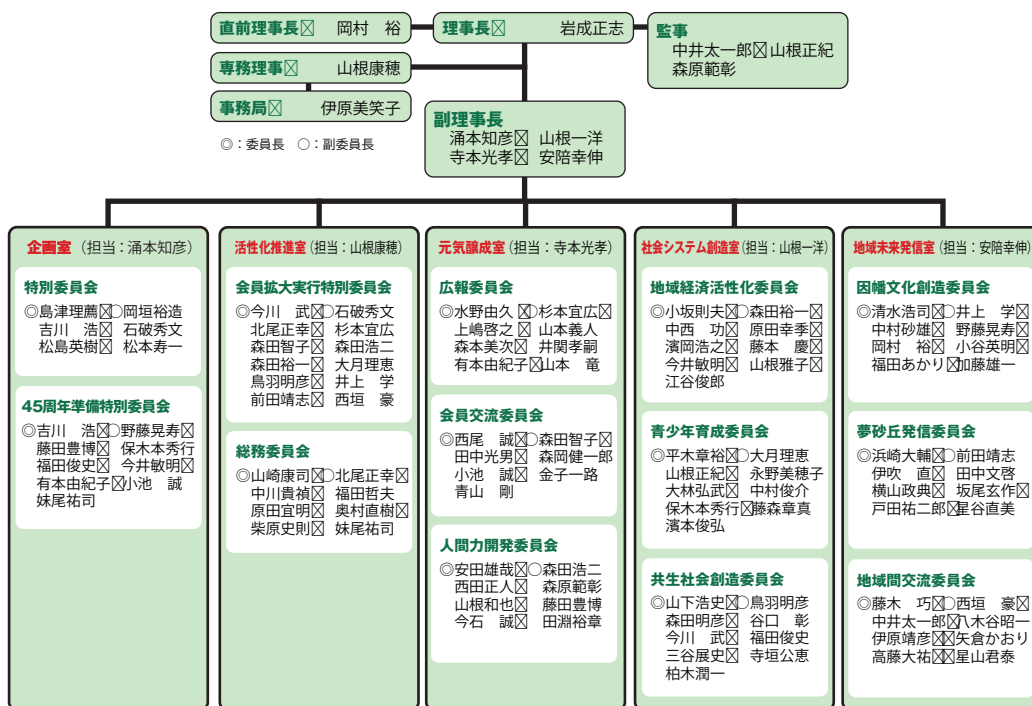
時代を経て、市町村の広域合併が推進するなど世が激変する中、今後五年間の活動指針として人の心や人を中心として、因幡の独自性や伝統文化を見直し「誇」を持って暮らしていく事の出来る「自立した因幡」を創造し、日本人の「心の原風景」とも言える、美しい自然環境や人に優しい人間性等を活かしたまちづくりを行い、日本再生のモデルケースとなりこの国の再生を目指します。

伝統や歴史、先人の努力や思いを大切に、人としての尊厳と、この因幡に住む事に誇りを持って暮らしてゆけるまちづくりを行い、この因幡に住んでいる事を誇りに思い、またこのまちで暮らしていきたいと思える「誇」の発掘と創造を機軸としたまちづくりを行って参ります。

そして最後になりましたが、これらの点をまとめ上げ、人と人の心を中心とする、情操豊かで、真に豊かなまち“因幡”をつくって参ります。

(※)【身土不二】「人と土は一体である」、「人の命と健康は食べ物で支えられ、食べ物は土が育てる。故に、人の命と健康はその土と共にある」といった考えに基づく東洋の叢智ともいえる哲学の一つです。人間の身体はその人が住んでいる風土と切り離せないということを意味し、自らの住む場所から四里四方(16km四方)で採れる旬のものを正しく食べている限り、人は心身共に健康でいられるという考え方です。昨今では循環型社会の原理として用いられることもあります。

# 2004年度(社)鳥取青年会議所 組織図



(社)鳥取青年会議所Webサイト  
<http://torijc.hal.ne.jp/>

発行・編集: (社)鳥取青年会議所 45周年実行特別委員会  
事務局: 〒680-0031 鳥取市本町3-102 商工会館別棟2F  
TEL: (0857) 24-1638 FAX: (0857) 24-1608  
URL: <http://torijc.hal.ne.jp/>  
デザイン: (株)シセイ堂デザイン  
印刷: 日ノ丸印刷(株)